

八王子市教育委員会 殿

学校名 八王子市立愛宕小学校
校長名 荒谷 弘喜 公印

令和7年度 教育課程について(届)

このことについて、八王子市立学校の管理運営に関する規則に基づき、下記のとおりお届けします。

記

1 教育目標

(1) 学校の教育目標

人権尊重の精神を基調とした知・徳・体の調和のとれた人間形成により、国家及び国際社会の一員としての資質をもった、心豊かに、たくましく生きる児童を育成する。

その達成に向けて、育てたい児童像を次のように設定する。

○ あ … 明るい子 (思いやりをもち、助け合う明るい子)

○ た … たくましい子 (心身ともに健康でたくましい子)

◎ ご … 根気強い子 (すすんで学び、ねばり強く取り組む子) =重点目標=

(2) 学校の教育目標を達成するための基本方針

各種調査結果や外部評価、内部評価、自己評価等から児童の実態を把握し、社会に開かれた教育課程を通して特色ある教育活動を推進するために、次の方針を立て教育目標を具現化していく。

ア 確かな学力の育成「すすんで学び、ねばり強く取り組む子」

①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、自ら学びに向かう力、人間性等を涵養し、生きる力を育む。

②問題解決的な学習における一つ一つの過程を大切に学習の基盤を充実させ、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実した授業の改善を図る。

イ 健やかな体の育成「心身ともに健康でたくましい子」

体力・運動能力調査の結果と児童の実態や発達段階を踏まえた体育科の授業を計画的に実施し、体育集会や休み時間を活用した取組により、運動に親しむ態度と運動能力・体力の向上を図る。

ウ 豊かな心の育成「思いやりをもち、助け合う明るい子」

児童一人ひとりを認め、個性の伸長を図り、学校の教育活動全体を通じて人権尊重の精神を基調とした差別や偏見のない心や自他を尊重する心を育む。

エ 不登校児童への支援

不登校総合対策「つながるプラン」に基づき、魅力ある学校づくりをめざすとともに、社会的自立に向けた居場所(不登校対応教室)を2か所設置する。

オ いじめの未然防止等の取組や不登校児童への対応

①一人ひとりの小さな変化を見逃さない組織を構築し互いに認め合い、支え合う児童を育成する。

②教職員全員で児童理解に努め、正確な実態把握と一人ひとりに応じた適切な支援を行うことで、学校を児童の心の拠り所とする。

カ 特別支援教育の充実

教職員の専門性向上や、地域との連携強化を図り、インクルーシブな教育環境を整備する。

キ 9年間の発達・成長を見通し、切れ目なくつなぐ小中一貫教育活動【上柚木中学校グループ(愛宕小、上柚木小)】

①9年間で育てる児童像を「自己決定・自己実現」の視点から「自律・共生・創造」と設定し、グループ一体となって小中一貫教育を推進する。

②上柚木中学校グループの連携・協働により、異年齢集団の中で自己有用感、尊敬する態度、適切な言葉遣いを通して人権感覚や言語感覚を磨き、豊かな人間関係を育む。

2 指導の重点

(1) 各教科等

ア 各教科（外国語活動を含む）

- ①「学力定着プロジェクトチーム」を組織し、八王子市学力定着度調査の分析を行い、学力向上委員会でも学力定着を組織的・計画的に進める。指導上の課題を見出し、課題解決に向けて校内研究や日常の授業に反映させる。改善策を反映させた年間指導計画並びに週の指導計画に基づき、学習指導を進める。
- ②知識及び技能の確実な習得のために、1人1台の学習用端末を各教科等で活用し、ICTの活用による学びの質の向上を図る。
- ③専門性の高い教科指導や中学校教育への円滑な接続、多面的・多角的な児童理解の促進のため、高学年における社会・理科の教科担任制を実施する。
- ④主体的・対話的で深い学びを促進するため、各教科において、実践活動、観察・実験、見学・探究活動、グループワークなど、多様な言語活動を取り入れ、自ら考え、表現する力を育む。
- ⑤算数科では実施計画に基づき学期の初めに、東京ベーシック・ドリルを全学年で実施する。第3学年以上で加配教員を活用し習熟度に応じた指導を行い、問題解決的な学習の充実を図り、自ら考え、判断し、表現する児童を育成する。また、学習支援ボランティア、学生ボランティアの授業への参画により、個に応じた指導を充実させ、基礎・基本の定着と学力向上を図る。
- ⑥外国語では、1人1台の学習用端末を活用し授業改善を進める。また、外国語指導助手（ALT）と全学年専門講師を配置し、コミュニケーション能力の伸長を図り、指導体制の充実を図る。

イ 総合的な学習の時間

- ①興味・関心に基づいた課題の解決や探究的な学習活動の過程に、体験活動や観察・実験、見学や調査、整理や考察、発表や討論等を適切に位置付ける。学習形態を工夫して、互いの良さを活かしながら問題を解決し、発達段階に応じて積極的に社会に参画しようとする態度を育てる。
- ②各教科等と関連付けた学習を行い、身に付けた知識や技能を各教科等と総合的な学習の時間の双方に生かすことで、思考力、判断力、表現力等の育成を図る。
- ③地域理解と伝統・文化の領域を深める郷土学習を、第3学年から第6学年で系統的・段階的に実施することで、日本遺産に触れる機会を設け、郷土への愛着を育む。さらに、姉妹都市である小田原市との交流を通じて、広域的な視野を養う。

ウ 特別活動

- ①異学年交流や休み時間のクラス遊びを通して、互いの良さを見付け尊重し合い、多様な他者と触れ合うことを意識し、よりよい人間関係の構築を図る。
- ②学級活動では、望ましい人間関係を形成するために役割を自覚して協働することの意義を理解させ、より良い生活づくりへの参画を図り、クラブ・委員会活動では、共通の興味・関心の追求や学校生活の充実に向けた取組の中で、望ましい人間関係の形成や個性の伸長を図り、自主的実践的な態度を育てる。
- ③第5・6学年の集団宿泊活動やその他の学校行事を通し、社会性や豊かな人間関係を育む。

(2) 「特別の教科 道徳」を要とする道徳教育

- ①自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、「よりよい学校生活、集団生活の充実」をめざす心を育てるとともに、道徳授業地区公開講座を通じた家庭・地域との連携を図りながら、道徳的な判断や心情、実践意欲と態度を育てる。
- ②特別の教科 道徳では、友だちに対する「親切、思いやり」について児童が自ら考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができるよう、言語活動を充実させた学習を推進する。

(3) キャリア教育

- ①「はちおうじっ子キャリア・パスポート」を活用することで自己理解を深め、生涯にわたって見通しをもち、進学への希望や期待を高められるよう、進路指導の充実を図る。
- ②望ましい勤労観の育成につながる活動を家庭や地域社会と連携して行いながら、教育活動全体を通じて生涯にわたって学び続けることや働くことに対する意義の理解や意欲の向上を図る。

(4) 特別支援教育

- ①すべての児童が共に学び、成長できるよう、特別支援教育コーディネーターを核に組織的な支援を行いインクルーシブな教育を推進する。
- ②学校生活支援シート、連携型個別指導計画を作成・活用し、必要な支援や配慮を保護者や関係機関との密な連携を図り、個に応じた支援や幅広いサポート体制を構築する。
- ③特別支援学級の児童の自立と社会参加を見据えた通常の学級との交流及び共同学習を充実。

(5) 生活指導

ア 生活指導

- ①学校全体で「あいさつ」「学習時の姿勢保持」を土台とした授業規律の確立を進める。
- ②家庭・地域社会と連携して、SOSの出し方に関する教育、セーフティ教室、薬物乱用防止教室、メディアリテラシー教育等、命を考える取組の充実を図り、児童が安全で安心な学校生活を送れるよう、自己を守る力を育む。
- ③児童が性犯罪・性暴力の加害者、被害者、傍観者にならないため「生命(いのち)の安全教育」を全学年で各教科等の指導に位置付け実施する。

イ いじめ防止等の取組

- ①週1回の「いじめ対応のための時間」では、各クラスからの報告、生活アンケートの実施結果、スクールカウンセラーから報告等を基に情報の共有化と対策を学校いじめ対策委員会で協議し、いじめの未然防止、早期発見、対応を図る。年3回いじめに関する研修等も計画的に行う。
- ②「八王子市いのちの大切さを共に考える日」を6月のふれあい月間に合わせ実施するとともに、いじめ防止に関する授業(年3単位時間以上)を各学級で取り組む。

ウ 不登校児童への支援等

- ①校内委員会では、登校支援コーディネーターを中心に組織的な支援体制を整え、個票システムや児童の状況等により不登校児童の早期発見に努める。また必要に応じて、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携協力し、未然防止、早期解決につなげる。
- ②不登校児童に対しては、保護者や外部機関と連携し、家庭訪問や児童との面談を行うと同時に学習用端末を活用した学習支援等を行い、学びの環境を整える。

(6) 特色ある教育活動

ア 義務教育9年間を見通した小中一貫教育の取組

- ①上柚木中学校の生徒によるサマースクール「学習ボランティア活動」を通し基礎的、基本的な学力の定着と、はちおうじっ子サミットや部活動体験等の交流により、中学校生活への見通しとともに、将来への希望をもたせる。
- ②9年間の教育を切れ目なくつなぐために、学力保障の取組「学力定着プロジェクトチーム」を編成し教科書やカリキュラム、評価方法などについて情報共有を行い、授業を共同で実施する。
- ③特別な支援の方法や生活指導等の諸課題を共有し、実践的な指導方法を検討する。
- ④上柚木夏祭り、上柚木音楽フェスティバル、防災ワークショップを保護者・地域の方と合同で行い、「地域の子どもは地域で育てる」という共通理解のもと、地域社会の一員としての自覚を育む。

イ 学力向上の取組

- ①学校コーディネーターと連携し、保護者・地域等の外部の教育力を活用し、学校運営協議会と連携した漢字検定、英語検定の実施等を通して基礎・基本の定着と学力向上をめざす。
- ②「はちおうじっ子ミニマム」を実施し、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着をめざす。

ウ その他

- ①学校コーディネーターを核に地域活動を企画し、児童・保護者・地域が積極的に参加することをめざす。
- ②「情報活用能力系統表」を活用し、義務教育9年間でICT活用技術や安全に情報社会と接するためのスキルを身に付けさせる。
- ③愛宕小学校2020レガシー「様々な人と共に生きる心情を育む」精神を引き継ぎ、特別支援学級と通常学級の交流及び共同学習を通して障害者理解を推進し、共生社会の実現をめざす。
- ④年2回「保幼小連携の日」を設定し、保育園・幼稚園・認定こども園の保育士・教員との情報共有を行い、スタートカリキュラムを活用し、保幼小での円滑な接続をめざす。